

開催日	開催時間	開催場所	開催の対象	開催名	開催の外部所属	開催タイトル	開催要旨	所内担当職員
2014/5/8 (木)	08:45～10:15	宇治キャンパス 総合研究4号館 共通1講義室	主として京都大学工学	松田曜子	関西学院大学災害復興制度研究所 准教授	「社会システム計画論」	菅野昭夫における被災者やNGO自治体等の関係を社会システム上の視点で分析する手法を講義する。	横松崇太(巨大災害研究センター)
2014/7/5 (土)	10:00～17:00	宇治キャンパス E-517D	大学院生、若手研究者	井上厚行	千葉大学 教授	環境地球科学特論(地球表面環境における粘土鉱物の生成と変化)	「地球表面環境における粘土鉱物の生成と変化」に関して、粘土鉱物の基本的性質や生成環境と機構について説明するとともに、風化作用、結成作用、熱水変質作用について、いくつかの例をとり具体的な話を挙げる。	千木良雅弘(地盤災害研究部門)
2014/7/6 (日)	10:00～17:00	宇治キャンパス E-517D	大学院生、若手研究者	井上厚行	千葉大学 教授	環境地球科学特論(地球表面環境における粘土鉱物の生成と変化)	「地球表面環境における粘土鉱物の生成と変化」に関して、粘土鉱物の基本的性質や生成環境と機構について説明するとともに、風化作用、結成作用、熱水変質作用について、いくつかの例をとり具体的な話を挙げる。	千木良雅弘(地盤災害研究部門)
2014/7/25 (金)	09:30～17:00	宇治キャンパス 国際交流室(S-207D)		倉岡千郎	日本工営株式会社中央研究所副技師長	斜面災害防止対策における実用的な解析技術	斜面災害防止に関わる実用的な解析技術について、わかりやすく解説いただく予定です。	松浦純生(地盤災害研究部門)
2014/7/26 (土)	09:30～17:00	宇治キャンパス 国際交流室(S-207D)		倉岡千郎	日本工営株式会社中央研究所副技師長	斜面災害防止対策における実用的な解析技術	斜面災害防止に関わる実用的な解析技術について、わかりやすく解説いただく予定です。	松浦純生(地盤災害研究部門)
2014/9/18 (木)	10:00～17:00	宇治キャンパス E-517D	大学院生、若手研究者	山根省三	同志社大学	顕差成長理論	振動の線形発展の理論や予測可能性、アンサンブル予測について講義下さる予定です。	榎本剛(気象・水象災害研究部門)
2014/9/19 (金)	10:00～17:00	宇治キャンパス E-517D	大学院生、若手研究者	山根省三	同志社大学	顕差成長理論	振動の線形発展の理論や予測可能性、アンサンブル予測について講義下さる予定です。	榎本剛(気象・水象災害研究部門)
2014/7/14 (月)	10:30～16:30 10:30～12:00 13:00～14:30 15:00～16:30	宇治キャンパス 地震予知研究センター新館200	大学院生、学部学生	高橋明久	石油資源開発KK	反射法地震探査	反射法地震探査は、石油天然ガス探査の世界で発展したが、今では地震防災のための地下構造調査や、二酸化炭素地中貯留(CCS)の注入層モニタリングにおいても重要な役割を果たしている。本講義では、反射法地震探査の原理・データ取得・データ処理・データ解析までの基礎的な流れを学ぶことを目的とする。その上で、石油天然ガス探査・地震防災調査での実例について解説する。実習では、紙と色鉛筆を用いた手作業で、反射法の原理と解釈の基本を経験する。	飯尾能久(地震予知研究センター)
2014/7/15 (火)	8:45～16:30 8:45～10:15 10:30～12:00 13:00～14:30 適用例(石油天然ガス探査・地震防災調査等) 15:00～16:30 反射法地震	宇治キャンパス 地震予知研究センター新館200	大学院生、学部学生	高橋明久	石油資源開発KK	反射法地震探査	反射法地震探査は、石油天然ガス探査の世界で発展したが、今では地震防災のための地下構造調査や、二酸化炭素地中貯留(CCS)の注入層モニタリングにおいても重要な役割を果たしている。本講義では、反射法地震探査の原理・データ取得・データ処理・データ解析までの基礎的な流れを学ぶことを目的とする。その上で、石油天然ガス探査・地震防災調査での実例について解説する。実習では、紙と色鉛筆を用いた手作業で、反射法の原理と解釈の基本を経験する。	飯尾能久(地震予知研究センター)
2014/7/29 (火)	13:00～17:00	宇治キャンパス 遠隔会議室(HW401)		榎垣秀輝	(株)環境地質・代表取締役	環境地球科学特論(地盤災害のリスク評価)		0 王功輝(斜面災害研究センター)
2014/7/30 (水)	9:30～16:30	宇治キャンパス 遠隔会議室(HW401)		榎垣秀輝	(株)環境地質・代表取締役	環境地球科学特論(地盤災害のリスク評価)		0 王功輝(斜面災害研究センター)
2014/9/9 (火)	13:00～17:00	宇治キャンパス 本館E棟5階 防災研究所 セミナー室 III(E-517D)		野沢徹	岡山大学大学院自然科学研究科・教授	気候変動と極端現象	IPCC第5次評価報告書によれば、地球の平均気温は19世紀後半以降に約0.85℃上昇しており、人間活動が20世紀半ば以降に顕著な役割を果たしている。本講義では、地球の平均的な気候の法則を概観した上で、極端な気象現象を含めた長期気候変動・変化の観測結果とそれらをもたらす気候変動要因について概観する。さらに、気候モデルの構築を簡潔に説明した上で、観測された気候変化の原因特定や(台風や大雨などの極端現象を含めた)将来の気候変化予測に近接する気候モデルやモニタリングに活用されている地震学手法の基礎的な説明と地震学手法の理論に基づく震害イメージング手法についての理論を講義する。	竹見哲也(気象・水象災害研究部門)
2014/9/29 (月)	13:30～17:00	宇治キャンパス 本館SS19D(S棟5階)	学部学生、若手研究者	中原 恒	東北大学	地震波干渉法の基礎	近年地震構造推定やモニタリングに活用されている地震学手法の基礎的な説明と地震波干渉法の理論に基づく震害イメージング手法についての理論を講義する。	岩田知幸(地震災害研究部門)
2014/9/30 (火)	10:30～12:00	宇治キャンパス 本館SS19D(S棟5階)	学部学生、若手研究者	中原 恒	東北大学	地震波干渉法と震害イメージングの理論	近年地震構造推定やモニタリングに活用されている地震学手法の基礎的な説明と地震波干渉法の理論に基づく震害イメージング手法についての理論を講義する。	岩田知幸(地震災害研究部門)
2014/10/30 (木)	15:00～16:30	宇治キャンパス 本館SS19D	大学院生	葛漢彬	名城大学	地震・津波に対する顕微鏡的性能設計の現状と課題	兵庫南岸部地震から20年が経過し、この間、顕微鏡の耐震設計の技術が著しく進歩した一方、津波に伴う巨大地震に対する課題も多く残されている。地震・津波による顕微鏡の破壊をシミュレーションする解析手法と顕微鏡の性能評価方法を概観する。	五十嵐晃(流域災害研究センター)
2014/11/20 (木)	13:30～17:30	宇治キャンパス 本館SS19D	学部学生および大学院生	神野達夫	九州大学大学院人間環境学研究院都市・環境	強震動予測を支える観測とそのデータの活用・他	地震観測の基本的な強震動予測を行うためには、震源や地下構造を適切にモデル化する必要がある。このモデル化には、多くの地震観測記録や物理探査結果などが用いられる。特に地震観測記録は強震動予測結果の検証にも利用されるなど、利用の幅が広く、精力的に観測が行われている。このように強震動予測は様々な観測記録によって支えられており、その観測記録の特徴を理解することは適切な強震動予測を行うためにも重要である。そこで、本講義では強震動予測を支える様々な観測の例として、強震観測と強震動予測を取り上げ、その観測方法やデータの活用方法について解説を行う。	飯島信一(社会防災研究部門)
2014/11/21 (金)	9:30～12:00	宇治キャンパス 本館SS19D	学部学生および大学院生	神野達夫	九州大学大学院人間環境学研究院都市・環境	強震動予測を支える観測とそのデータの活用・他	このほか、「SPAC法とCCA法によるRayleigh波の位相速度の推定」(K-NET観測点のポーリングデータ)による地震被害想定の基本となる強震動予測を行うためには、震源や地下構造を適切にモデル化する必要がある。このモデル化には、多くの地震観測記録や物理探査結果などが用いられる。特に地震観測記録は強震動予測結果の検証にも利用されるなど、利用の幅が広く、精力的に観測が行われている。このように強震動予測は様々な観測記録によって支えられており、その観測記録の特徴を理解することは適切な強震動予測を行うためにも重要である。そこで、本講義では強震動予測を支える様々な観測の例として、強震観測と強震動予測を取り上げ、その観測方法やデータの活用方法について解説を行う。	飯島信一(社会防災研究部門)
2014/12/19 (金)	10:00～11:30	宇治キャンパス宇治おうばくプラザ セミナー室5		榎田成朝	岐阜大学	流域環境に及ぼす森林の影響～木曾三川における治水史的考察と森林管理・気候変動・温暖化の評価～		榎 馨(京都大学学際融合教育研究推進センター グローバル生存学大学院連携ユニット)
2014/12/19 (金)	10:00～17:00	宇治キャンパス 防災研究所 4F セミナー室 II (E417D)		原口 強准	大阪市立大学	環境地球科学特論(海産・湖産における斜面変動とその探査)		0 釜井俊孝(斜面災害研究センター)
2014/12/20 (土)	10:00～12:00	宇治キャンパス 防災研究所 4F セミナー室 II (E417D)		原口 強准	大阪市立大学	環境地球科学特論(海産・湖産における斜面変動とその探査)		0 釜井俊孝(斜面災害研究センター)
2014/12/25 (木)	15:00～16:20	宇治キャンパス 本館SS19D		葛漢彬	名城大学 理工学部教授/自然災害リスク	地震・津波に対する顕微鏡的性能設計の現状と課題(第2回)		0 五十嵐晃(流域災害研究センター)
2015/1/5 (月)	14:45～16:15	宇治キャンパス 地震予知研究センター研究棟C200		木下正高	海洋研究開発機構(JAMSTEC)高知コア研究	「海溝型地震発生断層:掘削と観測でどこまで分かったか」	相模川沖地震発生断層(1994年12月)に掘削以来、8年経った。13地点で掘削が行われた。4ノットを超える黒潮下のライザー掘削、東北地震による破壊など、様々な困難を乗り越え海底下7kmの断層面岩層に向けて掘削を進めている。また2012年には3.11北東地震で50mの高速破壊を起したプレート境界断層先端部への掘削も行われ、先端破壊の仕組みが少しずつ分かってきた。掘削や海底観測の基礎と最新の成果を紹介しつつ、巨大地震の準備・発生仕組みの理解に迫る。	加納純之(附属地震予知研究センター)

2015/1/6 (火)	10:00~12:00	宇治キャンパス 地震予知研究センター研究棟 C200		木下正高	海洋研究開発機構(JAMSTEC)高知コア研究	「掘削・地殻変動・メタンハイドレート」	陸上での生命活動の結果として、大量の有機物が河川から海溝軸に運ばれ、プレート沈み込みに伴って沈み込み、また圧縮しながら陸側に付加する。有機物は微生物によりメタンに分解され、水深4000m、2℃という低温高圧条件のためハイドレート(氷)として、海底から数百mまでの堆積物中の間隙を占領している。ハイドレートの存在は、エネルギー資源としてのポテンシャル以外にも付加体の温度圧力状態とその変遷を示す、重要な指標になる。一方、掘削による場の擾乱は、地層状態を知る上ではマイナスである。が、その擾乱を利用することで状態を知ることもまた可能である。南海掘削で行われた温度計測の結果、ハイドレートのある区間で負の温度異常があることを発見した。掘削による摩擦熱や減圧でその場のハイドレートが溶け、潜熱を奪って温度下降が発生した可能性を検討した。メタンハイドレートが地下で織りなす物語の一旦を紹介する。	加納靖之(附属地震予知研究センター)
2015/2/12 (木)	午後	宇治キャンパス 研究本館 S-207D	主として大学院生だが	本多 亮	神奈川県温泉地学研究所	波形相関を用いた震源過程解析	観測点アレイで観測された地震波形データを用いて、波形の相関を利用した震源過程の解析方法について太陽系惑星の中で、唯一の水惑星である地球、同時に、地球は唯一の陸惑星でもあります。また、唯一プレートテクトニクスが作用する惑星でもあります。なぜ、この星は地球なのか？ この問題を解く鍵はマグマの発生と分化にあると考えます。本講義ではこの考えを解説すると共に、日本列島の噴火活動、特に巨大カルデラ噴火についても触れる予定です。	関口春子(社会防災研究部門)
2015/1/30 (金)	10:30~12:00 13:00~16:15	宇治キャンパス 防災研究所セミナー室II(E-417D号室)		巽好幸	神戸大学	「マグマ学」	太陽系惑星の中で、唯一の水惑星である地球、同時に、地球は唯一の陸惑星でもあります。また、唯一プレートテクトニクスが作用する惑星でもあります。なぜ、この星は地球なのか？ この問題を解く鍵はマグマの発生と分化にあると考えます。本講義ではこの考えを解説すると共に、日本列島の噴火活動、特に巨大カルデラ噴火についても触れる予定です。	味喜大介(火山活動センター)
2015/1/31 (土)	10:30~12:00 13:00~16:15	宇治キャンパス 防災研究所セミナー室II(E-417D号室)		巽好幸	神戸大学	「マグマ学」	太陽系惑星の中で、唯一の水惑星である地球、同時に、地球は唯一の陸惑星でもあります。また、唯一プレートテクトニクスが作用する惑星でもあります。なぜ、この星は地球なのか？ この問題を解く鍵はマグマの発生と分化にあると考えます。本講義ではこの考えを解説すると共に、日本列島の噴火活動、特に巨大カルデラ噴火についても触れる予定です。	味喜大介(火山活動センター)
2015/3/6 (金)	13:00~17:00	宇治キャンパス 防災研究連携研究棟 小セミナー室		陳光齊先生	九州大学・教授	防災における数値シミュレーション	地震、津波や土砂災害などの自然災害における予測と防災対策に関する研究では、数値シミュレーションが非常に有効な手段として認識されてきました。本講義では、数値シミュレーション手法として良く使われている不連続変形法(DDA: Discontinuous Deformation analysis) およびマニフォールド法(MM: Manifold Method)を中心に解説し、それらの防災への適用の実例を用いて、DDAとMMの実用的なシミュレーション技術を紹介します。また、既に開発したDDAプログラムを配布し、それを用いた数値シミュレーション技術を身に	王功輝(斜面災害研究センター)
2015/3/7 (土)	09:30~16:30	宇治キャンパス 防災セミナーIII (E517D)		陳光齊先生	九州大学・教授	防災における数値シミュレーション	地震、津波や土砂災害などの自然災害における予測と防災対策に関する研究では、数値シミュレーションが非常に有効な手段として認識されてきました。本講義では、数値シミュレーション手法として良く使われている不連続変形法(DDA: Discontinuous Deformation analysis) およびマニフォールド法(MM: Manifold Method)を中心に解説し、それらの防災への適用の実例を用いて、DDAとMMの実用的なシミュレーション技術を紹介します。また、既に開発したDDAプログラムを配布し、それを用いた数値シミュレーション技術を身に	王功輝(斜面災害研究センター)
2015/2/19 (木)	8:45~10:15 4. 津波(1)古文書に残された大津波 10:30~12:00 5. 津波(2)地層に残された大津波 13:00~14:30 6. 陸域・海底地殻変動からみた琉球弧	宇治キャンパス 地震予知研究センター研究棟 C200		中村南	琉球大学 准教授	「琉球海溝で巨大地震は起こるのか」	南西諸島のテクトニクスと地震・津波	加納靖之(附属地震予知研究センター)
2015/2/20 (金)	9:00~10:15 1. 南西諸島・琉球海溝のテクトニクス 10:30~12:00 2. 沖繩トラフのテクトニクス 13:00~14:30 3. 地震活動 14:45~16:15 特別セミナー「琉球海溝で	宇治キャンパス 地震予知研究センター研究棟 C200		中村南	琉球大学 准教授	「琉球海溝で巨大地震は起こるのか」	南西諸島のテクトニクスと地震・津波	加納靖之(附属地震予知研究センター)